

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2796500011		
法人名	株式会社 カームネスライフ		
事業所名	グループホームここから堺たんぼぼ村 (1)		
所在地	大阪府堺市北区中村町198番地の1		
自己評価作成日	平成23年4月10日	評価結果市町村受理日	平成23年6月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-">http://www.osaka-fine-kohyo-</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ナルク 福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成23年4月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所5年目に入り、ご入居者のADLも低下してきており、低下防止のための日常生活の中で軽い運動や誤嚥防止のための口腔体操を食事前に実施している。また、外気浴を兼ねて毎日の散歩を日課としている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は“ここからグループ”として介護関連事業を幅広く展開している。既存の建物を買収して平成18年2月に開設した。近隣は大きな工場があり一般住宅は少ないが、向かいの地主から情報を得て、地域の行事に寄付をしたり、子供だんじりがホーム前駐車場に入ってくれるのでお菓子を配っている。管理者は開設当初から勤務し、月1回の職員会議のほか、個人面談する機会を設け意見や要望を聞いて良好な職場環境をつくっている。ボランティアを積極的に受け入れ、大泉緑地公園内での福祉科学生の散歩支援や、絵手紙を教えに来てくれたり、フラダンスが来てくれる。敬老会で家族と共に蕎麦や握り寿司の出張料理を楽しみ、理念の「家庭的な雰囲気、地域の中で穏やかな生活、いつも笑顔」を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流を積極的にをモットーに・家庭的な雰囲気・穏やかな生活・いつも笑顔を理念に挙げ朝礼時に職員全員で提唱している	開設当初からの事業所独自の理念を、各階事務所に掲げて職員全員が共有し、月1回の会議で確認しながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りでは子供だんじりを駐車場で披露して貰っている。その際、子供たちに用意している駄菓子を利用者から一人ひとりに直接渡してもらっている。	地域の行事に寄付をしたり、子供だんじりにお菓子を袋詰しリボンを結び手渡している。隣接する小学校から社会見学で来訪する。地域の運動会や敬老会に招待されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	周りが工場が多いため、地域との交流が取れにくい面があるが、夏祭りや日課としている散歩の中で、交流を図るようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近況報告をした上で問題となる(転倒等)事に対する意見交換をしている。	利用者、家族、自治会長、地域包括支援センターが参加して年6回開催し、議事録を作成して家族に送付している。地域住民の参加が少ない。	老人会、婦人会、民生委員、介護相談員や近隣住民など、幅広く運営推進会議のメンバーとして要請する努力が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡を密にはとっていないが相談等はしている。	区内のグループホーム連絡会や、市主催の全グループホーム連絡会に参加している。要介護認定更新申請代行や生活保護手続き等で運営上の報告や相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては防犯上の問題もあり施錠に関してはご家族の了承は得ている。	玄関、ユニット入口は施錠しているが、玄関前に花を植えベンチを置いて外気浴や、利用者の100歳のお祝いに家族が寄付したウッドデッキには自由に出られる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての冊子を職員間で周知してもらったためいつでも読めるところにおいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ、学ぶ機会はもてていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結、解約時には双方ともに、時間をとり、納得のいくまで話し合い、解決に向けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	実践している。	法人の「ここからニューズペーパー」、事業所の「たんぼぼ通信」、利用者作成の絵手紙を送っている。家族が出席した敬老会で、出張料理を撮りながら家族と話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者はほとんど顔を出さない。月1回の職員会議で意見は聴いている。	管理者は、月1回の職員会議の意見を本部会議で報告している。事業所の外で個人面談をしている。新年会や忘年会で職員が気軽に意見を言う場を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎週、本部での報告会議がありその席で報告している。整備等に不備があった場合、早急に対処してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や外部研修への参加を積極的にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北区のグループホーム連絡会やネットワーク会議及び、市主催の勉強会には積極的に参加し、同業者との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族の了解を得て体験入所のシステムをとっている。いきなりの入所ではなく、1週間ほど、体験していただく事でご本人が馴染めるよう配慮し、職員も性格や入所前の生活を理解するよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは密に連絡を取っている。要望等あれば職員全体で取り組む努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状態を見極め、認知の進行をできる限りおさえられるように、自分で出来る事は自分でしてもらいながら必要に応じて介助もする。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所前の環境を理解し、個々に応じ家事を共にしたり、日課の散歩・買い物に出かける、テレビも一緒に見て笑ったり、歌ったりしている。。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	レクリエーションの時に書いた絵手紙等、家族に送付し、個々の近況報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	若い頃の写真を一緒に見たり、働いていた頃・子育ての話など聴くなど心掛けている。	利用者が病院へ入院中に出来た多くの友達がよく訪れて話し込み、利用者の兄弟が将棋のお相手に訪れる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で、淋しい時はなぐさめ合い、時には一緒にカラオケで歌う、トイレの場所を教えたり、食事の時間を伝えに行ったりされる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の連絡はとっていないが亡くなられたとの報告はうけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望、不満を聞いた時には、職員が記録に残している。困難な場合は、家族と相談しながら本人の意向に沿うよう努力はしている。	アセスメントシートや、利用者別の担当職員が記録した利用者の状態などを共有し、日々のかかわりのなかで、利用者の意向を把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、生活歴や嗜好等の把握に努めている。また、日々の暮らしの中でご本人から昔の話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分で出来ることはしていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員に居室担当をつけそれぞれに介護計画をたててもらい、それを元に全員で意見交換及び介護計画をたてて実践している。	毎月「担当者チェック表」を提出し、介護計画に反映させている。原則見直しは6ヶ月としているが、状態の変化に応じて新たな介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は些細なことでも記録に残している。それを元に問題解決や介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の付き添い、送迎の支援を行っているが、家族の協力が得られない方が多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣小学校の行事の見学や公民館を無料でお借りしボランティアによる演芸大会を開催することもある。近くの喫茶店の利用者と共にコーヒーを飲みに行っている。利湯者の状態を把握して協力してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回かかりつけ医の往診があり、体調の変化に応じ看護師に報告、受診をしている。	家族や利用者の同意を得て、協力医療機関をかかりつけ医として、内科は月2回、歯科は週1回、泌尿器科は月1回の往診がある。従来からの病院は家族で継続受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の排泄状況から食事・水分摂取量等記録し、看護師に報告する。便秘や下痢の処置も、その都度対処してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者や看護師が入院中の状態を適宜職員に報告してくれている。退院後の介助の仕方の指導もしっかり行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	歩行困難や自己にて排泄が不可能になった利用者には電動ベッドを利用し、オムツ交換・体位交換をしやすくする。かかりつけ医の紹介で大きな病院での受診・入院が可能になるよう連携がとれている。	入居時に「看取りの指針」について説明し同意を得ている。重度化した場合は、医師の助言により、家族と話し合い方針を共有して対応するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、意識確認・バイタルチェック等を行い、職員・看護師等の判断で救急搬送する。急変時マニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会いの元、定期的に避難訓練を行っている。当施設の真向かいに公民館や、地主さんがおり避難協力の要請をしている。災害時用の備蓄用品を設置している。	防災マニュアルを整備して、スプリンクラーを設置し、備蓄品をすぐ持ち出せる玄関ホールに置いている。年2回消防署の指導を得て、避難訓練をしたが、近隣住民の参加がない。	昼夜を問わず避難できるよう職員だけの避難誘導の限界を踏まえて、避難訓練に近隣住民へ参加を要請する取り組みが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室で、家族面会時等家族と居室で過ごす。居室に引きこもらないよう気配りしながらも、個々の生活を見守る。オムツ交換・トイレ使用等も他人の目に触れないですむ環境になっている。	家族として敬愛の念をもって利用者に接し、プライバシーに配慮したトイレ介助や入浴の介助をしている。個人情報の記録は事務所に厳重に鍵を掛けて保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩や外気浴に出る機会を増やす行事への参加状態・食べ物の嗜好・排泄のサイン等把握していき、職員間で気付くよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声かけは必ずするが、本人の意思にまかせて、レク等も参加してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度訪問美容を実施、利用者自身に長さや髪型を決めてもらっている。居室に鏡やブラシを置き整容してもらう。外出時、口紅をつけて気分転換を図っている(女性の場合)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理専門担当を雇っている。利用者と共にテーブルに着き食事を取っている。洗い物・テーブル拭き等出来る事は一緒にしている。	食材業者から食材が配送され調理専門職員が週3回調理している。それ以外の曜日は職員、利用者が買い物から調理まで一緒に料理している。朝食のパンは毎日買いに行く。利用者の希望で、鍋物・たこ焼き・お好み焼き・バイキングなどで楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は記録し好みの味付けや食べ物もほぼ把握している。歯の状態により固さを変えている。体重の増減もグラフをつけ食事量を変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア促し、自己にて出来ない利用者には職員が介助する。歯科往診による口腔ケアも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のサインをつかみトイレ誘導を行う。できるだけ時間を決めてトイレ誘導し、トイレで排泄するよう心掛けている。	普通のパンツ、リハビリパンツ、オシメと利用者別に排泄習慣を記録し、利用者の様子を見ながらトイレ誘導や失敗した時の着替えなど利用者の状態に合わせ支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜は温野菜で提供し、多く摂取できるようにする。おやつに、バナナやさつまいも等繊維の多いものを提供し、また適度な運動をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員と1対1で入浴、浴室内・湯の温度の調整を個々に合わせている。曜日は決まっているが午前・午後の入浴希望を取りいれている。	調理専門職員の出勤日を風呂の日として、全員が朝から夕方までの希望の時間に入浴している。風呂場は広く二方から2人がかりで入浴介助する利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	椅子で傾眠し始めたら、ベッド臥床促し、短時間の昼寝をしてもらう。夜間、寒がりの方にはエアコンで温度調節、好きなパジャマを着用されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬袋の記名を複数の職員で確認し、服薬してもらい誤薬を防ぐ、看護師在中の時は看護師に服薬してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コーヒーやたばこ等体に影響のない程度に提供、カラオケや散歩で日々の変化をつけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの公園に徒歩で行ったり、車で少し離れた公園に行ったり、ドライブだけを好む方には、ドライブに連れて行く。	近くにある大泉緑地公園まで車で行き、福祉科の学生ボランティアに公園内散歩の支援を受けている。松原運動公園の花見や屯倉神社の観梅にも行くなど、季節の変化も取り入れた外出支援に配慮している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1ヶ月に使う金額(家族の希望)を決め、好きなおやつやたばこ、ハガキ等を買われる。買物時には職員と出かけ、精算のときにはご本人にしてもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を事務所で充電・預りし、本人の希望時にかけて話をしていただき、家族からの電話もとつぎ、居室でゆっくり話してもらっている。。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、季節ごとに壁面飾りをし、季節感を味わう、遮音・遮光には常に配慮し、ロールカーテン等で重苦しくならないようにしている。	リビングは広くテレビの前にソファを置いて寛げる。壁は1階は薄緑・2階はピンクで部屋は明るい。利用者の状態に合わせ食卓を配置している。壁に行事の写真、事業所新聞、パッチワークのカレンダー、鯉幟を3匹飾っている。風呂場に手作り暖簾をかけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大型テレビの前にゆったりとしたソファを設置、席を譲り合ったりしながら仲良く過ごされている。食卓テーブルで新聞を読む方・おはじきをする方など、それぞれの過ごし方をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には居室で使用していた椅子やテーブル・タンス・仏壇等も置いている、花や植物を集め育てている。タンスの中身もわかりやすく表記している。	居室には表札をかけ、部屋担当の職員名を小さく表示している。ベットとクローゼットが備え付けられ、使い慣れた家具を置いて、家族の写真や利用者の若い頃の写真、縫ぐるみや利用者の作品を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札付近に色違いで折り紙の花をつけて、わかりやすくする。 トイレのドアに大きくトイレ表示・ドアの開け方も示す。浴室ドアには銭湯を思わせる大きなれんをかけている。		